

【A年】

大齋節第三主日

全能の神よ、どうかあなたを呼び求める僕らの願いを心に留め、力あるみ手を差し延べてすべての敵を防いでください。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書は出エジプト記第十七章一節から」

1 主の命令により、イスラエルの人々の共同体全体は、シンの荒れ野を出発し、旅程に従って進み、レフィダイムに宿営したが、そこには民の飲み水がなかった。2 民がモーセと争い、「我々に飲み水を与えよ」と言うとき、モーセは言った。

「なぜ、わたしと争うのか。なぜ、主を試すのか。」  
3 しかし、民は喉が渴いてしかたないので、モーセに向かつて不平を述べた。

「なぜ、我々をエジプトから導き上ったのか。わたしも子供たちも、家畜までも渴きで殺すためののか。」

4 モーセは主に、「わたしはこの民をどうすればよいのですか。彼らは今にも、わたしを石で打ち殺そうとしています」と叫ぶと、5 主はモーセに言われた。

「イスラエルの長老数名を伴い、民の前を進め。また、ナイル川を打った杖を持って行くがよい。6 見よ、わたしはホルブの岩の上でああなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる。」

モーセは、イスラエルの長老たちの目の前でそのとおりにした。7 彼は、その場所をマサ（試し）とメリバ（争い）と名付けた。イスラエルの人々が、「果たして、主は我々の間におられるのかどうか」と言いつて、モーセと争い、主を試したからである。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第九十五編 六〇十一節

- 6 身を低くして伏し拝み＝ 造り主、主のみ前にひざまず  
（こう）
- 7 主はわたしたちの神、わたしたちは神の民＝ わたした  
ちはその牧場の民、そのみ手の羊
- 8 今日、神の声を聞くなら、メリバのあのときのように＝  
マツサの荒れ野の日のように、心をかたくなにして  
はならない
- 9 あのととき、あなたがたの先祖は＝ わたしの業を見たが、  
わたしを試しこころみた
- 10 四十年の間、わたしを悩ませた民に言った＝ 「彼ら  
は心の迷った民、わたしの道を知らない」
- 11 わたしは怒って誓った＝ 「彼らをわたしの安息に入ら  
せない」

使徒書

朗読者 「使徒書はローマの信徒への手紙第五章一節から」

1 このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだ  
から、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に  
平和を得ており、2 このキリストのお陰で、今の恵みに信仰

によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りに  
しています。3 そればかりでなく、苦難をも誇りとします。  
わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、4 忍耐は練達  
を、練達は希望を生むということを。5 希望はわたしたちを欺  
くことがありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、  
神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。6 実にキ  
リストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、  
不信心な者のために死んでくださった。7 正しい人のために  
死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまな  
い者ならいるかもしれません。8 しかし、わたしたちがまだ  
罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでく  
ださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されま  
した。9 それで今や、わたしたちはキリストの血によって義  
とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われ  
るのは、なおさらのことです。10 敵であったときさえ、御子  
の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解さ  
せていただいた今は、御子の命によって救われるのはなお  
さらです。11 それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリ  
ストによって、わたしたちは神を誇りとしています。今やこ  
のキリストを通して和解させていただいたからです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

## 福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第四章五節以下に記された主

イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

5 それで、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにある、シカルというサマリアの町に來られた。6 そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである。

7 サマリアの女が水をくみに來た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。8 弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。9 すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。10 イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」11 女は言った。「主よ、あなたはくむ物

をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。12 あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」13 イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渇く。14 しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」15 女は言った。「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに來なくてもいいように、その水をください。」

16 イエスが、「行って、あなたの夫をここに呼んで來なさい」と言われると、17 女は答えて、「わたしには夫はいません」と言った。イエスは言われた。「夫はいません」とは、まさにそのとおりだ。18 あなたには五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。」19 女は言った。「主よ、あなたは預言者だとお見受けします。20 わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」21 イエスは言われた。「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が來る。22 あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から來るからだ。23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が來る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求

めておられるからだ。24 神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもつて礼拝しなければならぬ。」25 女が言った。「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。」26 イエスは言われた。「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」

39 さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。40 そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるように頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。41 そして、更に多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。42 彼らは女に言った。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。」

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」